

お知らせや団体、組織内での転送、回覧、クリックを、よろしくお願いします

2024 第95回 中央メーデーは、5月1日の10時から、代々木公園で開催。

開場 ▶ 9:00 開会 ▶ 10:00 パレード ▶ 11:20

- 1 恵比寿コース (都障教祖・南部・中部の順)
- 2 青山コース (主催者団体など・西部の順)
- 3 代々木コース (東部・北部の順)

三多摩メーデー会場は、井の頭公園西園。5月1日の13:30 ▶ 開会・行事開催

※ 第95回メーデー実行委員会は、東京労働会館6階 東京地評内
TEL 03-5395-3171 FAX 03-5395-3240

.....
米国盲従・財界言いなり、裏金・脱税・大軍拡・戦闘武器輸出・改憲・労働法制大緩和路線・年金福祉切り捨て・貧富格差超拡大へ……。どうします、この情勢。

CU東京HPの労働関係情報の過去の4月の掲示板ほか、ここ数年のメーデーの記事と歴史概要が載っています。重複がありますが、ご参考に。毎年のメーデースローガンほか、メーデーの起源である1886年5月1日の、米国シカゴを中心にした8時間要求やストライキ、弾圧事件等の闘いは、ご自習を。

● 日本メーデーの歴史 初めの頃と最近は？ ●

日本での始まりは1920(大正9)年5月2日(日曜日)、上野公園で15団体、5000名(一万人とも)が参加。治安警察法(女性の政治活動の禁止ほか)第17条(制限的争議権・団交権)の撤廃、恐慌による失業防止、最低賃金制設定の三項目を決議。さらに8時間労働制、東京市電争議支援、公費教育の実現、シベリア出兵の撤兵、の緊急動議を可決し、終了後、検束者の釈放を求めるデモ隊と警察隊とが衝突。

しかし戦前最後となる第16回メーデーは、1935(昭和10)年5月1日。1936(昭和11)年の2.26事件を機に敷かれた戒厳令・内務省通達により、メーデーほか無産政党・労働組合・大衆運動の禁止命令。それに対して、5月1日は、全国各地で座談会・各種大会・ピクニック・家族慰安会・欠勤運動・工場内デモ・食堂改善要求・賃上げ・失業反対・労働強化反対・臨時工制度反対などを掲げましたが、同年4月3日には、政府財界に従う日本産業労働倶楽部が「日本労働祭」を前年に引き続き開催し、「東洋平和の確立」「労資一体」「労働報国」を掲げ、翌年1937年(昭和12)年の日中

戦争勃発へつながった動きをしました。そして第17回メーデーは、内務省により厳密に禁止され、完全断絶に。満州侵略と中国制覇、太平洋戦争突入へ繋がります。

● 1945(昭和20)年8月、日本帝国主義・軍国主義のポツダム宣言受諾による敗

戦終戦を迎え、これ以降の戦後は、憲法改正の動きや連合軍指令部(GHQ)による民主化5大政策(労働組合結成の奨励、婦人の解放と参政権、教育勅語の失効と民主化、圧政の法的制度の撤廃と取り消し、財閥解体や小作の廃止と農地解放)の中で、1946年3月施行の労働組合法制定に続き、ついに5月1日、戦後第1回、通算第17回目のメーデーを開催！ 全国で250万人、東京で50万人、同19日には食料寄せメーデーが30万人で開催。 ※(当時の労働組合の組織率は、45.3(47年)、53.2(48年)、55.8(49年)%にも。

なお、2023年6月現在の推定組織率は、16.3%で前年から0.2後退！女性労働者は12.4%、パート労働者は8.4%と各0.1マイナスに。

● 1949(昭和24)年の第20回メーデーの年は、6月の改定労働組合法施行後、

7月下山事件、三鷹事件、8月松川事件と、権力の謀略による事件が連続し、全国的に不当な捜査と弾圧・逮捕監禁と、官公庁や民間で大量なレッドパージが展開されることに。翌1950年、共産党幹部の追放と「アカハタ」停刊、そして総評が結成され、朝鮮戦争勃発へ。日本は、朝鮮半島への出撃と、大量の米兵戦死者の遺体受け入れ基地に。

1951年(昭和26)年、総評は、占領軍GHQによる皇居前広場使用禁止を受け入れ、各地区メーデーの取りやめと集会参加の取りやめを指令。

これに反対する統一メーデー促進会は、各地でメーデーを開催し、実質中央メーデーとなった芝公園には5万人、全都で10万人が結集。

● 第23回の1952年・昭和27年は「血のメーデー」 中央メーデーは明

治神宮前で開催したが、使用禁止をされた皇居前広場における人民広場メーデーには数万人が結集し、これに武装警官が規制、弾圧・発砲し大衝突に。デモ隊員二名が死亡、数百人が負傷し、1332名が検挙を受け261名が起訴されるに至り、1972年11月の、騒擾罪に付き全員無罪の確定まで20年にわたる裁判闘争へ。

● 労働戦線の分裂の影響で 分裂したメーデー その後、アメリカへの政

治経済の従属のもとで息を吹き返した日本独占資本と、米大統領ケネディと駐日大使ライシャワーによる、日本の労使に対する巧妙な脅迫と懐柔路線によって、日本の労働戦線は、解体と右翼的再編の動きが、強まることに。

ついに、1989年、総評・同盟は解体し、その結果、連合と全労連の各結成となり、第60回メーデー実行委員会では、従来の満場一致原則が多数決制に変えられるに至り、中央メーデーは、三つに分裂へ。

統一労組懇やマスコミ、金融、商業による新たな実行委員会によって、「たたかうナショナルセンターの確立」をめざす、労働運動の右翼再編と連合路線に与しない新しい実行委員会が発足、辰巳の森会場へ23万人。連合と総評は代々木公園で19・6万人。都労連系(後の全労協系へ)は日比谷公園で3・1万人。

翌1990年からは統一系による第61回中央メーデーが、新木場の夢の島公園で15万人。そして、翌1991年は、亀戸中央公園で6万人集め以降、同会場で11年間、連続開催。

● さて、2001年に入り、連合系メーデーは、世界でも日本でも闘いの歴

史の有る開催日を、ゴールデンウイークの土曜日4月28日に変更！

しばしば、時の政権の首相や与野党の関係者が、連帯と親愛の情と期待を述べに登場することが続き、エープリルフールかと言われたほど、4月の「メーデー」？に変質。つまり、5月のメーデーは行なわず、代々木会場は、使わない事に。

そして2001年・第72回中央メーデー実行委員会は、12年ぶりに代々木公園で、全労協は日比谷でと、5月1日開催を貫徹。

当日は両会場から、相互にエールの交換・激励の交歓を行って、

以降、世界と国内で働き たたかう仲間達、諸団体と連帯し歩調を合

わせ 切実な要求と政治課題、国民要求を掲げ、今日に至っています。

● 【 立ち読み知識 ③⑨ 】 ● メーデー休暇の承認や組合事務所の提供など、「使用者の可能な便宜供与」について、知りたい。(回答) 労組法第7条で、使用者に禁じられている「不当労働行為」の規定の例外に、「可能な便宜供与」と言うのがあり、勤務時間内の団交時間への賃金保障、新規就労者への組合からの歓迎挨拶や、時間内の組合業務上の連絡や打ち合わせ行為の容認、組合員の災厄に対する福利厚生資金の供与など、交渉にもよるけれど、たくさん有るよ。

CU(コミュニティユニオン)東京 (東京地評) 〒170-0005 東京都豊島区 南大塚2-33-10

東京労働会館 1階 TEL 03-3946-9277 FAX 03-5395-3242

組合費 月 2000円、内1000円は 労働共済費。協力組合員は 1000円。駆け込み寺機能と、まともな労使関係をめざし、首都で個人加盟3千名目標に拡大中。中小企業家との共同・連携、市民と野党の共闘も追及。近況確認と 保存資料閲覧は CU東京 HPへ。情報、連携先紹介は 発信元 m-maezawa-dan@jcom-zaq.ne.jp 前澤檀まで。